



12組、13組、14組、15組を俯瞰した航空写真 9組、高橋淳氏 (82) 撮影

新しい仲間を迎えて

140名の新入会員の皆様 ようこそ

町内会長 吉川俊雄

広袴便り

吉川俊雄 書
(町内会長)

'04夏

広袴町内会
会報第3号

東京都町田市広袴町内会

発行責任者

会長 吉川俊雄

〒195-0056

東京都町田市広袴2-7-19

<電話・FAX>

042-735-5464

広報部長 鈴木正子

〒195-0052

東京都町田市広袴町438-7

編集長 中村一行

〒195-0052

東京都町田市広袴町522

<電話・FAX>

042-735-4894 (鈴木)
042-734-9706 (中村)

会員の皆様には益々お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は町内会各事業にご理解ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本年は年初からBSE、鳥インフルエンザ、鯉ヘルペス等の奇病が次々と流行し、私達の日常生活に様々な形で影響を及ぼしています。今年も多難な年かと心配されましたが、ここ広袴町内会地域の発展は著しいものがあり、道路の開通、区画整理事業の完了と長年の懸案が片付いたのを機に住宅の新築ラッシュが進む中、新しくご入会された方がなんと140世帯、総会員数が497名にも上り、そのような心配を吹き飛ばす希望に満ちた新年度入りとなりました。昨年度までの会員数357世帯比39%もの伸びとなり、単年度の伸びとしては今までに経験したことのない記録的な年となっております。かくも多くの皆様のご加入を頂くとができましたことを深く感謝すると同時にこの新しい会員の方々の期待に応えられるよう町内会運営に一段と努力と情熱を傾注していきたいと考えております。

その手始めとして町内会の組織の見直しを総会にて提案しました。従来、私一人で行い切っていた町内会務を、会員数の増加に伴ってより効率的に処理するために部会を設け、各部長に権限を委譲しつつ全体を掌握していくという方法であります。これにより、各役員はいづれかの部会に属し、日頃の活動目標を明確にご認識いただ

き、各部門の中核的推進力となっていたことができず。一方、大きなイベントでは従来どおり全員協力する、ということ、従来培われてきた連帯感が失われるわけではなく、トータルではより充実かつ活性化された組織作りが出来ると考えております。各部では既に6月以来、部毎の活動計画を練って実施に移して来ております。いっぺんにこの新しい組織が定着することは難しく、今年1年間は試行錯誤が続くと思われませんが、これも将来に向けた土台作りですので皆様のご支援ご協力をもってこの新体制移行を成就して行きたいと考えております。この新体制の下で各種行事、事業活動を行うことにより新旧会員相互の和と親睦、理解と融合を図り、もって広袴地域全体の生活文化の向上、福利厚生増進、安全安心の町作りという大きな目的達成に向かって皆様と歩みたいと祈念しております。

昨年度発行をしましたこの「広袴便り」も年2回発行、広く会員の皆様と町内会の架け橋となることができれば幸いです。ごさいますが、ここに第3号を発行することができた喜びを皆様と分かち合いたいと思っております。第5頁の寺田市長との対談記事は文化論議であります。そこに書かれておりますように「広袴便り」も文化の薫りを発信し、広袴の誇りとなるような会報に発展するよう強く期待しております。さて長らくお待たせしております町内会

館建設の件ですが、町田市からは既に中規模会館建設補助金として4000万円を平成16年度ないし17年度執行用としてご承認いただいております。平成17年7月頃には完成させたいと願ひ、引き続き努力を傾注しております。

最後に広袴地区の保育園新設の問題をご報告致します。平成15年10月に(仮称)広袴保育園の設置計画書が会員の一人から出されました。町田市もこの4月で保育園を待っている子供達の比率が全国で(人口比)1番になるという危機感から保育園新設は市政の最重要課題の一つとして取り組んでおり、子ども生活部を昨年4月から発足させているのはご承知と思います。従って市及び市議会もこの保育園の設置についてはご理解ご支援をいただき、3月26日の本会議において、5078万円の子算もご承認いただきました。しかしながら、説明会が開かれるに従って総論賛成なるも各論反対の意見が建設予定地近隣会員の間で強まり、紆余曲折の結果、この計画は5月に中止されました。私としては将来を担う子供たちのために、もし次の設置希望計画が出されたならば何とか皆様のご理解ご支持が得られることを強く願っております。以上今後共、明るく住みよい町づくりを目指し、皆様方のお力添えをいただき、各事業、行事を進めて参りたいと存じます。最後に皆様のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

平成16年度定期総会開催

平成16年度定期総会が4月18日午後2時より町内会館にて92名の出席者と23名の委任状により開催され、町内会長、副会長、会計の3役及び各組の委員が2年任期の2年目を迎えた他、各組の組長、班長が新しく就任しました。新しい役員の詳細については別表のとおりです。

平成15年度の事業報告・決算報告・16年度の事業計画・予算については会長の吉川俊雄氏、副会長兼会計の中村一行氏より説明があり、承認されました。15年度の会費収入は会員皆様のご協力により37口176万円の納入をいただきました。その結果総収入は402万円となり、総支出が343万円であったことから、59万円の次期繰越金となり、町内会の財産としては既存の定期預金を併せて11万円となりました。

16年度の予算では会員の大幅な増加により会費収入を450口と見積もり、支出を前年並みの355万円に抑えると充分黒字が見込めることから、従来徴収していた防災費の廃止が決まりました。また交際費の支出方法の変更と増額、印刷費の増額改定も行われました。決算・予算の詳細については別表のとおりです。

今年には更に町内会組織の見直しが討議されました。急激な会員の増加に鑑み、部会を設け、各部会が責任を持って16年度事業計画をきめ細かく遂行し、同時に各役員の方々にもきめ細かくお役目を担っていただくという趣旨で次の部会が提案されました。①広報部(広報一般、行政当局、議会との窓口、広袴便りの編集刊行)。②防災

部(自主防災訓練の企画実施、市総合防災訓練への参加実施、自主防災座談会及び講習会の企画運営、歳末警戒の企画実施、防災マップの作成配布、防災倉庫の鍵及び備品管理、防犯活動推進委員会との連携)。

③環境衛生部(環境美化活動の企画推進(調整池、真光寺川、せせらぎ、広袴公園等の清掃、藻や雑草の除去、ゴミ問題の調整等)。

④文化部(盆踊り大会、市民運動会、どんど焼き等の年中行事の企画実施、町内会各種団体との連携、その他文化活動の企画、紹介、推進)。

⑤総務部(事務局をここに置き、部長が事務局長を兼任、会員情報管理―新入会員の受付、既存会員の移転、変更、訂正、退会、ガイダンス。慶弔情報及び福利厚生全般の管理、部長会の主催及び3役への報告、町内会館建設支援及び完成後の管理運営)。

この執行部提案に対し、理想ではあるけれども会員がもっと増えてからやればいいことでは今時期早尚であるという反対論と会員が増えてからではもっと大変になるので今から組織を作っておいた方がよいという賛成論とがあり、議長幹旋でこの1年間かけてこの新組織の目指す方向で努力をしていくということが承認されました。

これを受け、4月29日の委員会でも部長候補を絞り、5月9日の役員会にて各組長、班長にも希望の所属部を申請していただいた結果、第3頁の陣容でとりあえず船出すこととなりました。1年間試行錯誤が続くと思われず。皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

(中村一行)

平成16年度 広袴町内会 役員名簿

役職名	氏名
班長2-A	吉川 久子
C	中山 裕之
D	古山 繁雄
3-A	園部 松男
B	石川 琢
4-B	栗田 正幸
5-B	駒田 陽一
9-B	多田 雅昭
C	中島 勝
D	祐川 直
10-A	千綿 幸雄
B	津志田 定男
C	洞口 実
12-A	大東 栄二
B	山川 広司
C	山中 浩
D	小野寺 徹
13-A	長谷川 尚
B	萩谷 宏三
C	伊藤 周男
14-A	高須 泉樹
B	杉下 和仁
C	松本 勇志
D	吉澤 一美
15-A	江川 富雄
C	吉村 幸司

役職名	氏名
組長 1組	高橋 四郎
2組	吉川 清
3組	渡邊 修
4組	太田 勝
5組	吉川 啓二
6組	吉川 明
7組	広瀬 俊雄
8組	吉川 金作
9組	平島 達生
10組	渡辺 公治
12組	森本 亮平
13組	佐々木 稔
14組	秋永 茂男
15組	上杉 孝三郎

役職名	氏名
相談役	吉川 和志
会長	吉川 俊雄
副会長	森 吾一
副会長・会計	中村 一行
委員 1組	宮田 洋一
2組	河合 晶子
3組	大塚 里秀
5組	大塚 盈
6組	熊田 道夫
7組	鈴木 正子
8組	熊谷 清
9組	小林 豊
10組	西川 文二
会計監査	姉崎 進
〃	吉川 久雄

平成16年度事業計画

- 各種福祉募金活動
日赤 社協 赤い羽根 歳末助け合い
- 自治消防及び災害対策の推進
消防署 消防団第七部との連携を図り防火、防災訓練の実施
- 青少年対策への協力
二小 二中 青少年第二地区対 子供110番 子供会の連携支援
- 町内各種団体の育成強化
消防団 広楽会 子供会 後援会等、相互の協力
- 防犯、交通事故防止活動の展開
警察署 駐在所 防犯活動推進員連携 防犯の集い 防犯灯増設 安全 安心町づくり
- 環境衛生活動の推進
ゴミ減量 ゴミのルール 犬のフン始末 環境美化を図る
- 町内会館建設への推進
建設委員会設立 17年度上期竣工目標

平成16年度行事日程計画 (予定)

項目	月日
1 自主防災訓練 AM9:30~11:00 (大震災を想定)	7月25日(日)
1' 盆踊り準備 (ヤグラ建て) PM1:00~	8月1日(日)
2 盆踊り大会 PM6:00~10:00 (カラオケ、焼き鳥、焼きそば、その他)	8月7日(土)
3 市総合防災訓練 AM9:00~11:30 (他地域合同) 野津田公園	8月29日(日)
4 市民運動会 AM9:30~16:00 (市立陸上競技場)	10月3日(日)
5 自主防歳末警戒 PM10:00~12:00 (町内の火災、盗難、犯罪を未然に防止する)	12月29, 30日
6 新年初顔合わせ AM9:30~ 神明社境内	1月1日
7 どんど焼き (お正月飾りを子供達が集め焼く)	1月14日(金)
8 自主防災座談会 町内会新年会	1月22日(日)

[平成15年度 広袴町内会 会計報告書]

[平成16年度 一般会計予算]

一般収支報告書 (自平成15年4月1日～至平成16年3月31日) (単位:円)

(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日) (単位:円)

項目	予算	決算	増減	摘要
町内会費	1,360,000	1,418,900	58,900	351×4000+(新規加入6-14,900)
防災費	325,000	340,050	15,050	336×1000+(新規加入6-4,050)
市助成金	80,000	80,000	0	
自主防災助成金	35,100	143,565	108,465	市防災倉庫補助金 108,465
社協活動費	2,000	0	-2,000	
会館賃貸料	5,000	0	-5,000	
盆踊り	600,000	937,860	337,860	
簡保活動費	100,167	294,533	194,366	
雑収入	10,000	97,258	87,258	簡保剰余金の還元金 56,840
前年度繰越金	715,835	715,835	0	
計	3,233,102	4,028,001	794,899	
支出				
消防団	170,000	170,000	0	
広楽会	30,000	30,000	0	
敬老費	20,000	20,000	0	
子供会	30,000	30,000	0	
消防後援会	30,000	30,000	0	
青少年健全育成	20,000	20,000	0	
募金	120,000	120,000	0	日赤 社協 赤い羽根 歳末助け合い
連合会費	13,000	13,000	0	
体育祭費	150,000	113,484	36,516	
防災費	160,100	299,196	-139,096	防災倉庫216,930
会館維持費	600,000	456,817	143,183	地代 火災共済 電話 電気 水道他
事務消耗品費	30,000	29,727	273	
印刷費	60,000	42,710	17,290	
雑費	30,000	21,264	8,736	道路開通式茶代17,237
交際費	250,000	250,000	0	
総会費	80,000	36,273	43,727	
委員会費	80,000	49,535	30,465	
盆踊り	800,000	788,613	11,387	
備品費	120,000	162,540	-42,540	石油ストーブ1台、テント1式126,000
慶弔費	80,000	63,000	17,000	慶事2件 弔い4件
予備費	360,002	187,860	172,142	「広袴便り」夏号、冬号印刷費181,860
町内会定期預金	0	500,000	-500,000	
計	3,233,102	3,434,019	-200,917	
次期繰越金	0	593,982	593,982	普通預金536,992 現金56,990

項目	予算案	15年度決算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	593,982	715,835	-121,853	
町内会費	1,800,000	1,418,900	381,100	450×4,000
防災費	0	340,050	-340,050	
市助成金	102,000	80,000	22,000	200×450+12,000
自主防災助成金	42,250	143,565	-101,315	65×450+13,000
社協活動費	2,000	0	2,000	
会館賃貸料	5,000	0	5,000	
盆踊り	700,000	937,860	-237,860	
簡保活動費	294,533	294,533	-237,860	
雑収入	10,000	97,258	-87,258	簡保剰余金の還元金 56,840
計	3,549,765	4,028,001	-478,236	
支出				
消防団	170,000	170,000	0	
広楽会	30,000	30,000	0	
敬老費	20,000	20,000	0	
子供会	30,000	30,000	0	
消防後援会	30,000	30,000	0	
青少年健全育成	20,000	20,000	0	
募金	120,000	120,000	0	日赤 社協 赤い羽根 歳末助け合い
連合会費	13,000	13,000	0	
体育祭費	150,000	113,484	36,516	
防災費	100,000	299,196	-199,196	
会館維持費	600,000	456,817	143,183	地代 火災共済 電話 電気 水道他
事務消耗品費	30,000	29,727	273	
印刷・広報費	280,000	42,710	237,290	広袴便り
雑費	30,000	21,264	8,736	
交際費	280,000	250,000	30,000	学校、各種団体寸志、会費、研修費等
総会費	80,000	36,273	43,727	
委員会費	80,000	49,535	30,465	役員会、編集会議
盆踊り	900,000	788,613	111,387	
備品費	120,000	162,540	-42,540	
慶弔費	80,000	63,000	17,000	
予備費	386,765	187,860	198,905	
町内会定期預金	0	500,000	-500,000	
計	3,549,765	3,434,019	115,746	
次期繰越金	0	593,982	-593,982	

諸積立金 (平成16年3月31日現在)

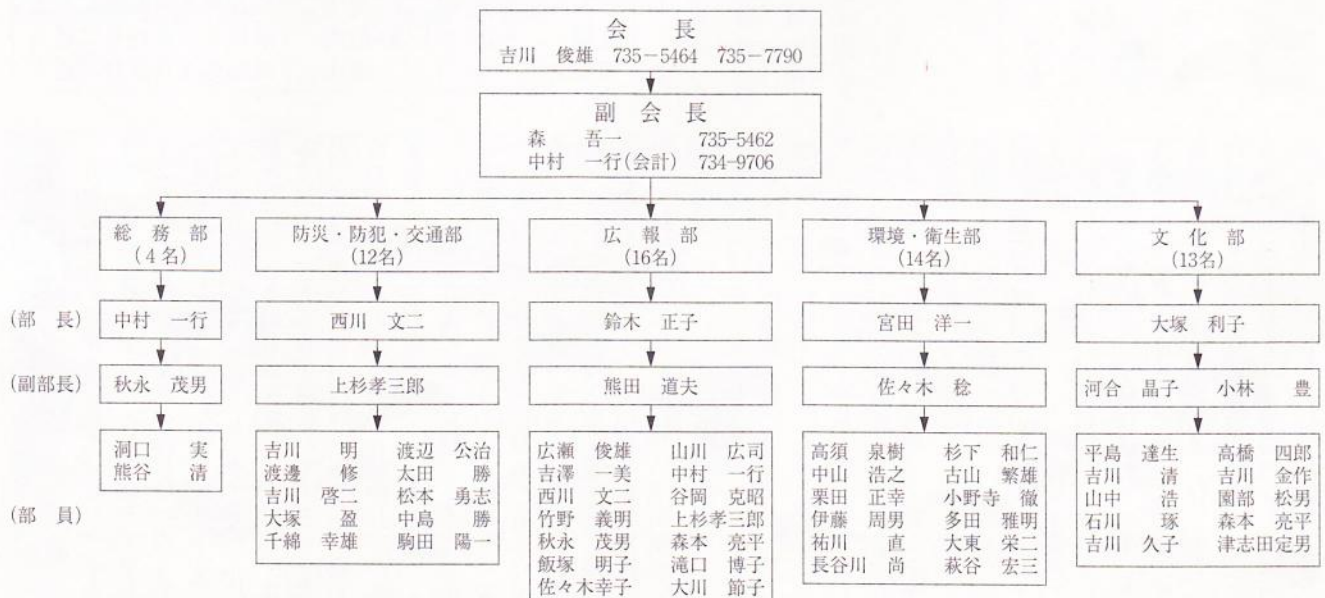
町内会定期預金 (農協)	480,291円	(6/13/03-6/13/04, 0.03%)
会館予備費定期預金 (農協)	139,466円	(6/13/03-6/13/04, 0.03%)
町内会定期預金 (農協)	500,000円	(3/10/04-3/10/05, 0.03%)

諸積立金 (平成16年3月31日現在)

町内会定期預金 (農協)	480,291円	(6/13/03-6/13/04, 0.03%)
会館予備費定期預金 (農協)	139,466円	(6/13/03-6/13/04, 0.03%)
町内会定期預金 (農協)	500,000円	(3/10/04-3/10/05, 0.03%)

上記のとおりご報告致します。平成16年3月31日 会計 中村 一行◎
 監査の結果適正と認めます。平成16年4月3日 監査人 吉川 久雄◎
 監査人 姉崎 進◎

広袴町内会 各部会組織図



移転・変更・訂正・新入会員



会員の消息

カッタ
谷岡克昭

彦美仁隆 悟人 宏博 二夫 等 雄実 二樹 明三 二伸 太夫 勇雄 郎 聡司
善一 直康 俊久 富敏 敬博 敬裕 新 良暉 幸孝 三 幸
藤澤 田木 井藤 口藤 内田 川沢 斐藤 林藤 濱川 川山 山口 山杉 川村
佐吉 池梅 佐々 須田 内古 村江 泉甲 俊小 佐中 星森 森山 横上 石吉

15組A班

15組B班

15組C班

守彦 郎幸 二知 夫浩 人薫 嗣正 哉仁 樹男 嗣勝 古洋 人雄 英史 見次 彦志 一史 民博 之浩 明男 吾
嘉鉄 由俊 靖一 達 真拓 克和 泉茂 堯 早和 生利 利篤 勝義 智勇 幸裕 和智 清正 公君 健
藤井 藤木 古田 井村 原島 村島 澤下 須永 宿山 田嶋 木村 路田 山藤 波本 島谷 持持 入藤 原野
斎桜 佐鈴 瀬戸 永中 増三 三宮 柿杉 高秋 指奥 織小 鈴西 山吉 畑伊 阿松 青鎌 劍坂 佐菅 森吉

14組B班

14組C班

14組D班

博磨 久浩 之則 徹巖 男志 志男 正安 弘広 幸弘 三人 彦子 治夫 健彦 一尚 造史 成三 憲稔 昇夫 二紀 彦男 孝治 司之 治
義琢 義康 日出 智仁 秀要 明一 裕安 卓文 幸利 寛幸 順健 浩清 良宏 哲祐 佳英 周吉 広博 富讓
田川 目中 宅津 寺村 井田 川田 留必 野藤 藤崎 木川 原藤 田安 見際 川藤 井木 谷澤 木村 上山 谷藤 崎村 村広 西
武津 夏山 三久 小野 小柴 永福 三徳 飯伊 佐柴 鈴堀 三迎 武安 喜高山 長近 櫻佐 萩平 佐々 北田 丸湊 小伊 岩内 北国 小

12組D班

13組A班

13組B班

13組C班

14組A班

吉親 介一 司夫 一一 晃彦 夫宏 実理 之一 顕行 博志 敦志 二子 之孝 修史 平英 史則 明志 司猛 郎男 介昭 司彦 一之 寿
忠正 健浩 晴和 裕浩 利雅 芳智 雄信 智健 尚栄 孝隆 公剛 亮智 芳和 英裕 広三 和浩 敏聡 義伸 義
村藤 脇塚 後川 目辺 並兎 川川 位山 尾村 田島 願田 上田 東味 田水 田川 本山 山侯 刈井 川田 島辺 賀郷 立竹 谷嶋 谷
植佐 森石 田中 夏山 榎可 吉吉 四石 小岩 太小 道岡 川内 大五 佐久 清原 堀森 青勝 草坂 美濃 山吉 手渡 志浅 足大神 小洪

1組

2組A班

2組B班

3組B班

4組A班

6組

9組A班

9組C班

9組D班

10組A班

10組C班

12組A班

12組B班

12組C班

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

4組B班	霧生 貞造 氏	平成15年12月3日	ご逝去
5組B班	柿沼 晁子 氏	平成15年12月17日	ご逝去
5組B班	柿沼 本茂 氏	平成16年1月29日	ご逝去
1組	山吉 治氏	平成16年2月16日	ご逝去
5組A班	山吉 巖氏	平成16年4月5日	ご逝去

広袴に移り住んで

昨年の9月に長年の転勤族にピリオドをうち、広袴を終のすみかとして移って参りました。その頃の我が家の周辺は、つち色一色の淋しい風景でしたが、この半年ですっかり家も建ち並び、各家々の庭先は様々な花々とやわらかな新緑に彩られ、まるで初めて迎える春を謳歌しているようです。この4月から、かわいい小学生の登下校の姿も見られるようになり、少しずつ活気が出て参りました。

広袴に移り住んでみて、歴史ある土地柄や自然豊かな環境を日々の生活の中で心から愉しんでおります。尾根緑道や真光寺川沿いを歩く道すがら、穏やかな里山の四季折々の美しさに、何度となく足を止め眺め入ったことでしょう。この鮮やかな景色の中でこれからの年月を重ねていける幸せを感じます。

縁あってこの土地を第二のふるさとにする者として、転勤族の頃とは違った「熱き想い」がございます。この土地に古くから代々住まれている方々や新しく入ってこられた皆様と共に、交流を深め、新旧住民が尊重し合い、融合していく中で、時間をかけながらこの広袴の「安心・安全・安住」の街づくりに、住民の一人として積極的に参加、協力させて頂きたいと思っております。

(秋永茂男)

昨年9月、広袴3丁目に越してきました森本です。妻と実母そして娘一人の4人家族です。私も妻も仕事を持っており、時間的許す限り広袴町内会の皆様のお役にしたいと考えておりますので宜しくお願ひ致します。

(森本亮平)

寺田市長と語る 「町田市立文学館」の 楽しみについて



寺田市長と守谷町田市立図書館副館長を囲んで

市長の著書「わが山旅、まちだ文学散歩」のあとがきの中で既に8年前から文学館があれば……とその夢を語っておられますが。この構想は市長になった時から10年来考えていたことです。広袴、能ヶ谷、真光寺は古くより文人の多いところで、民俗学の大御所、柳田國男は戦時中に雑誌「水曜手帳」で「広袴紀行」を書いていました。また俳句の世界では終戦後鶴川に移り住んだ石川桂郎さんに、この鶴川の農村風景を詠んだ名句がたくさんあります。他に相原の望郷の詩人、八木重吉、新しくは遠藤周作が玉川学園に「狐狸庵山人」執筆時居られたし、文学に関する話題は沢山ありますね。そうした背景の中で町全体に文化的環境を作ってこそ市の発展もあるものと考えてい

まして、そのひとつとしてやっと実現にこぎつけたものです。ただ最近では財政状態が厳しく、あまりお金を掛けずに造らなければならぬので旧中央公民館の再生をしながら工事に入り、来年には3階建てでオープンしたいと思っています。文学と上段に構えたいとつつきにくい印象を与えますが、自分史を含め、多くの市民の方々が文章を書かれたりしており、そういう方々の心の拠り所にもなればと願い、又未来を担う子供達にも刺激になればと考えています。「活動する文学館」という概念も訴えておられますが。

単なる作家の事跡紹介の展示や記念館ではあまりリピーターが期待できません。リピーターを確保し、皆が参加しやすいようにということ、講演会、勉強会、読書会等が活発にできる場にもしたいし、ITの技術を生かして他所の文学館との交流も図り、更には映画会や音楽会の開催もできるという多層複合的施設を目指しています。それを総称し、「活動する文学館」といっています。そういう活動のため、研究室、保育室、100人収容可能なホールもあります。また市の中央図書館とも連携して資料を相互利用できるようにも考えています。地下室にも11万冊収納できる書庫があります。鶴川に縁の深い浪江慶ご夫妻による、大蔵にあった私立農村図書館の蔵書もここに収納されますが、ゆくゆくは地元鶴川の図書館に浪江文庫として移管したいとも考えています。またピクチャーの元作詞家で「街のサンドイッチマン」や「ガード下の靴磨き」等の作詞をした宮川哲夫（1922～1974）さんの所蔵であった原稿、楽譜、

SPレコード等もご夫人から寄贈を受ける予定にしていますが、それが実現したら「宮川さんの記念の音楽の夕べ」と題してそのSPレコード鑑賞会を開くとか企画したいことはいっぱいあります。

文学館構想はどちらかというと国内的視点から推進されているようですがこの4月に設立された(財)町田市文化・国際交流財団と活動を結びつけ、国際的な視点を持たせるのは……。

面白いとは思いますが国際的接点を見つめるのは今後の課題ですね。行政の仕事は、かつては公共施設である道路や建物の建設に偏りがちでしたが、これからはやはりその中身であるカルチャーが伴うまちづくりでなければ、長い目でみて市の発展はありません。高齢化が進んでこの文化・国際交流財団には引退組の人が50人から60人も登録して活き活きと活動し、町田の新しい文化・国際交流の力になっていて、留学中の外人の大学生との交流なども行っています。市民の中でこの財団の活動を更に掘り下げてくれる人が出てくれば面白くなると思います。町田市立国際版画美術館も18000点程の版画を収蔵しています。設立当初には反対意見もありましたが、現在では国内はおろか、海外でもその存在が評価されており、これは町田の誇れる国際的文化施設です。町田市立文学館もそんなものになってくれることを期待しています。「広袴便り」も文化の薫りを放てればいいのですが……。



市長を囲んで

最後に一言お願いします。次の人生をどう生きるか？文化がそれに応える。あとはお金 ハハ。
(熊田道夫、飯塚明子、中村一行)

郷土史の発掘と継承——屋号の考証

(第四回) 続「なぬしさま」

広袴には二人の領主となぬしさまがいた

第1回で「なぬしさま」、第2回で「みせ」を探り上げ、大塚道子家筋が広袴本来の「なぬしさま」であり、吉川正雄家筋は経済名主と称し、主に会計の任に当たった為にそう呼ばれたようであって、領主が異なる為に複数の名主が存在したケースとは違いうようである」と結論づけた。これに対し、8組の郷土史家で日本地名研究所の事務局長を務められる金子欣三氏から、その結論は間違いであるとの指摘を受けた。金子氏によれば将に広袴には複数の領主がいた為に複数の名主が存在したということである。

領主の変動と分郷

一般に江戸期の武士の給与は現米給与と知行地あてがいの2つの形態があり、前者を蔵米取り、後者を知行取りといっていた。幕府は旗本対策及び財政改善策としてある程度の禄高の者に対しては、漸次蔵米取りから知行取りへの転換を進め、この転換を「地方(ジカタ)直し」と言った。この地方直しは寛永10年(1633)2月から大掛かりなものが行われ、次いで元禄10年(1697)7月にも行われた。この時の法令により50俵以上の蔵米取りは全て地方知行に、あるいは知行地と蔵米の合計が50石以上になるならばその蔵米を知行地に切り替えた上、原則として江戸より10里以上遠く離れた土地を割当てた。これにより、近郊の村々に新しい旗本領主が設定された。この支配者側からの一方的な政策は旧来の領主知行

地と村落との共同体を分割(分郷)することとなり、村民生活は大きな影響を受けることとなる。

広袴の場合

広袴の土地は江戸時代になってからは幕府直轄の天領となり、正保の頃に表された「武蔵田園簿」では代官今井八郎左衛門の支配下に約84石を数えた。ところが江戸中期の「旧高田領取調帳」では約77石と少し減少し、この77石の内、天領は江川太郎左衛門支配所の50石であり、残りの27石は旗本神谷家の知行所となっている。これは享保14年(1729)12月に村高の内27石が「地方直し」により旗本神谷武右衛門久敬(ヒサヨシ)に与えられた為で、以後幕末まで天領と神谷家領の2給の村として続いた。神谷久敬は享保14年に250俵を加増され、500俵の蔵米取りとなった結果、それを500石の知行地として武蔵国多摩郡に割当てられたのである。広袴村の27石の他、金井村が37石、小野路村が10石、本町田村が28石でその割当合計の実数は500石を上回り533石であった。神谷家は三河出身の譜代の旗本であり、代々「久」の字を名前に用いた。寛政重修諸家譜巻第1452によると初代「久政」、「久豊」、「久時」に次いで「久敬」は4代目に当たり、500石の知行取りとなつた5年後の享保19年(1734)には勘定奉行に任じ、志摩守に叙せられている。

吉川家と大塚家

吉川正雄家は第2回でご紹介したように600年も続く家系である。吉川正雄氏の先代は吉川泰長氏といわれ、泰長氏ご存命中に行われた市史編纂室の調査により発見され

た古文書7通が町田市史史料集の第2集に2つ、第3集に5つ収録されている。それらは吉川泰長家文書と称され、元禄のものが1通、嘉永のものが3通、安政、万延、明治のものがそれぞれ1通である。この他特筆すべきは、2通の後北条氏印判状が登録されているということである。後北条氏の印判とは座臥した虎を配した意匠が有名で「虎の印」と称され、それを捺印した虎印判状は初代の北条早雲から始まって氏綱・氏康・氏政・氏直の5代に亘って使用された。



後北条氏虎印判状の虎印(国立公文書館)

吉川家に伝わる北条家の印判状の1つはこの5代氏直により天正9年(1581)8月17日に発せられたものであり、広袴村民に対する段銭(タンセン)といわれた当時の税金をおよそ2倍に増税の上期日までに完納せよという指示書であった。

もう1つの印判状は広袴村民に対し、同郷の馬を全て三輪(にある沢山城)に集めた上で(そこに貯蔵してある)城米を江戸島まで運搬するよう命じたものであり、氏照によって発せられた。氏照とは3代氏康の次男で、長男の氏政が本家の4代となつた為、八王子滝山城の城主となり、広袴地域の直接の支配者であった。この書状の書かれた年は判然としないが日付は2月26日付けであり、後北条氏は秀吉の小田原攻めにより天正18年(1590)7月に滅亡することからこの秀吉の小田原攻めに備えての食糧備蓄のための指示書であったと推測



後北条氏虎印判状(付日)天正9年8月17日(吉川正雄家)

されており、そこから推定して吉川家は当時から小代官的職掌を担った名主地侍層であったと思われる。従って江戸期に入って広袴が天領となつた時も吉川家が広袴の村全体の名主を続けていたと見ても大過ないと思われる。が、不思議なことに前述の享保14年12月の「地方直し」により村内27石が神谷武右衛門久敬に与えられると吉川家はそれ以降は神谷領の名主となり、以降その職を世襲し「長右衛門」と名乗った。一方の大塚家は享保以降天領の名主となり、以降その職を世襲し、「仙蔵」と名乗った。大塚道子家の家印を八仙と表記するのはこの故である。明治になって再び全村が一つになった時、長右衛門が再び村全体の名主を務め、仙蔵が年寄となった。その後明治5年に戸籍法が改正されると、名主は戸長に年寄は副戸長あるいは副長と改称され近世に至っている。つまり享保14年以降幕末まで大塚家が天領の「なぬしさま」であったのに対し、吉川家は同期間、旗本神谷領の「なぬしさま」であっただけでなく、江戸以前も明治以降も実質の「なぬしさま」であったということが出来るようである。

参考文献

「町田市史」上巻

「町田市史資料集」第2集、第3集

(中村一行)

されている。以上2通の北条氏印判状の宛先は前者が広袴代官・百姓中、後者が百姓中となつ

神明社 広袴の氏神さま

暑い夏にも終わりを告げ、さわやかな風を感じる頃、秋祭りの季節となります。

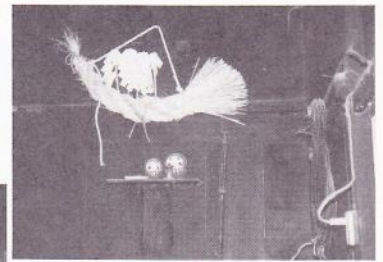
秋祭りといえば、広袴の氏神様である神明社のことをご存知でしょうか。神明社は4丁目のつる川園芸さんの所を山の方に向かって、突き当たりの細い山道の中を進み、階段を上っていくとその頂に社があります。境内からは広袴の町から鶴川団地まで眺める事が出来、晴れた日には富士山も望めます。



神明社境内

この神明社について、広袴の町の歴史に關しては生き字引ともいえる大塚豊さんにお話を伺い、つる川園芸の宮前宏さん（氏子総代）に神社に関する資料のご提供を頂きましたのでご紹介します。

創立の年代は明らかではありませんが、嘉永7年（1854）4月の「村差出明細帳」に神明社とあり、「風土記稿」に小社のため旧来より神主無く村内妙全院（別当）で守護していたとあります。大塚豊さんのご先祖は、この神明社の創立までに色々なご苦勞を重ねていらっしやいました。まだこの辺りを武藏国南多摩郡広袴村と呼んで



大塚豊さん宅の火の神様



大塚豊さん宅のカマド

いた頃は本当の社はなかったのです。大塚さんが19歳で出征なさった時、「戦争から帰って来た時は、社を建立しよう。」と、吉川尚徳さんの祖母であられたキヨさんと約束し、お不動様の砂をお守りとして戦場に発たれました。戦前は広袴の町には5年毎ぐらいに火災が発生し、埼玉県の三峰神社から火難避けのお札を持って帰っていましたが、大塚さんは昭和20年9月に無事に復員され、無事を感じて当時のお金で20円をその火難避けのお札共々お不動様に奉納し、持って行ったお守りの砂も謹んでお返ししたそうです。そしてキヨさんとの約束どおり5人の発起人（①世田谷からの疎開者で信州出身であった棟梁の麦島政一氏、②大塚郡治氏（大塚 豊氏のご尊父）、③吉川三次郎氏（吉川 勝氏の御祖父）、④吉川泰長氏（吉川正雄氏の先代）、⑤吉川重平氏（吉川久雄氏の御祖父）を立て、昭和23年1月7日、社竣工の確認をしまし

た。その年の秋には氏子総代にも掛け、氏子の労働、広袴の有志の奉仕により、山を切り開き、現在の地に社を建立する基礎を築きました。こうして昭和25年に7万円余の予算で拝殿が完成し、秋に上棟式を行いました。その後、本殿、覆宮、幣殿（洗心舎）と次々に建立されました。この建設に猛反対された方もおられたとのことですが大塚さんとしては石にかじりついても造ろうと必死だったそうです。昭和29年7月4日には宗教法人となり、さらに平成7年には拝殿が再建同様に大改築されました。

神明社の祭神は八百万の神々の中心に位置する女神、皇室の祖であり、伊勢神宮の御祭神である「天照皇大神」です。社殿の構造は本殿、幣殿（洗心舎）、拝殿が高低をもつて分かれているこの近辺では珍しい特徴的な配置になっております。本殿、拝殿ともに神明造りで、拝殿は茅葺入母屋造りになっており、例祭日は毎年9月28日です。広袴の住人と町をお守り下さっている、神明社を、時には参拝し、無事で居られることに感謝してゆきたいものですね。

（佐々木幸子、滝口博子、中村一行）

広袴にギフチョウがいた!!

皆さんギフチョウを知っていますか。私が埼玉から引越した翌年、今から2年前の桜が散った4月中旬、この広袴でギフチョウに出逢ったのです。「オ、珍しく優雅に舞う蝶がいる」私が尾根緑道を散歩中、春ののんびりした風の中に、それは驚異の再会だったので。こんな処にギフチョウがいるはずがない、そんな疑いの眼で私はそ

の蝶が枯草に羽を休めるのを待つて確認すると、驚くなれ正にそれはギフチョウではありませんか。私はその時、50年前にタイムスリップ、初めてこの蝶に出逢った時の様な純粋な歓喜を覚ええました。

黒と黄色の縞模様と橙と紅色の斑点、アゲハ科（大型蝶が多い）でありながら個体は極めて小さく、胴はいやに毛深く、そしてその飛ぶ姿は物憂げで淋しげな夢路の少女が舞っているような、そんな姿なのです。振り返ってみますと、私は故里信州でこのギフチョウや仲間のヒメギフチョウに取りつかれ、この蝶を採集したり、この蝶が卵を産み付ける食卓のカンアオイやウスバサイシンを採って来ては幼虫を育て上げ、翌年蝶に孵化させたものでした。しかし生息分布は関東の山間地も入ってはいませんが、何故この蝶が都会に近い広袴の地に生息しているのでしょうか。残念ながらその後一度もギフチョウには出逢ってはいませんが、食卓のカンアオイだけは見つけています。今でも自然が多く残るこの広袴の何処かにギフチョウはじっと身を潜めて、きっと生き続けていると確信しています。是非是非もう一度再会したいと深く思っています。

（谷岡克昭）



諸団体から

広袴子供会

資源回収について

町内会の皆様には子供会活動に関しましてご理解とご支援を賜り有難うございませす。資源の回収につきましては昨年度1年間で約16万2千円もの奨励金を町田市より頂くことができ、子供会にとつて大きな財源となっております。その奨励金等で昨年は夏のお楽しみ会として大地沢青少年センターへ、又1年生、6年生の歓送迎会と様々な行事を行っております。これから先、新しい家も建ち、子供達もどんどん増えてくると思いますが、町内会の皆様のご協力を引き続きお願いしたいと思ひます。今年度からは第2、第4月曜日の月2回の資源回収になります(雨天決行)。特にアルミ缶、新聞は奨励金単価が高いので宜しくお願ひ申し上げます。出し方については朝8時30分まででできるだけトラックの出入りしやすい処に子供会と大きく書いて数軒まとめて出していただけると助かります。

鶴川第二小学校創立40周年について

今年鶴川第二小学校が創立40周年を迎え、昨年より記念品をとベルマーク回収に力を入れてきました。2月には町内会の皆様にご協力いただきバザーを開催したところ、天候にも恵まれ大盛況の内に終えることができました。バザーは家庭用品、おもちゃ、手作り品と品数も豊富で子供から大人まで楽しむことの出来た1日だったと思ひ、皆様にご協力いただいたこと心より感謝申し上げます。10月16日の記念式典については次号でお知らせできればと思ひます。

(会長 吉川 牧)

広袴公園、鶴川台せせらぎ緑道を守る会

広袴の鳥(その二)

キジ

調整池の中の西側の灌木や池の上の斜面の緑地に、日本の国鳥であるキジが生息しているのをご存知ですか。桃太郎でおなじみの、あのキジです。毎年卵を産み、ヒナが孵ります。昨年は5羽生まれ、オスが2羽、メスが3羽でした。

本来草原に棲むキジが宅地開発で調整池に追い込まれてしまったのです。オスは顔は赤、首は紫、胸は緑に輝き、尾は長く全長80cm。メスは一寸小ぶりで全長60cm、褐色で地味な色彩をしています。生まれて数ヶ月の間、ヒナはメスを小さくした色・形をしています。



カワセミ

飛ぶ宝石とも呼ばれ、町田市の「市の鳥」にも指定されているカワセミが調整池、真光寺川、真光寺公園の池で見られます。時速100kmで飛ぶ17cmの小鳥ですから、運がよくないとお目にかかれませぬ。

広袴調整池の「中の島」の柳の木や西側の干潟の蒲の辺りにはよくいます。

木の枝からのダイビング、ホバリング(停空飛翔)からのダイビングにお目にかかれます。1mくらいの横穴に巣を作ります。日頃は単独行動の鳥ですが、7月頃には4〜5羽見かけます。調整池のどこかで営巣しているものと思われませす。



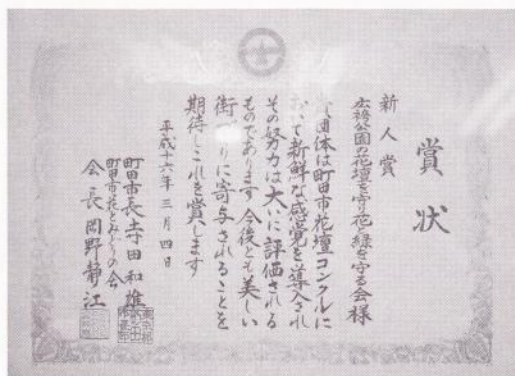
(山本隆治)

広袴公園の花と緑を育てる会

花壇コンクールで新人賞に輝く

本会(会員数29名)は広袴便り第2号で紹介したとおり、第62回「秋の花壇コンクール」において、参加327団体の中からめでたく新人賞を獲得し、3月4日に賞状(町内会館に掲額)と記念品を授与されました。これもひとえに大嶋会長の熱心なる指導の下、会員の一人一人が協力し、丹精を込めて育て上げた賜物であり、深く感謝すると共に素直に受賞の喜びを皆で分かち合いたいと思ひます。審査員の説明によれば、花壇コンクールに参加して3年以内の36団体が対象で「花壇全体が新鮮な感覚に溢れ今後の花作りに期待が持てる内容」が評価基準との事であり、今回はその中で5団体が受賞しました。

大嶋会長の弁によると、「私は入賞する事が究極の目的でなく花の好きな人達が集い、友好的関係を持ちつつ花と緑を育て、広袴公園に散歩に訪れる人々に癒しの場を提供し、その中から花を通じて新しいコミュニケーションが生まれるスポットにしたい」との願望であり、誠に堅実で好感の持てる発想です。私も会員の一人として大いに賛同し今後の花作りに協力を惜しまないばかりか、より積極的に参加していきたいと考えております。そして、我々が育てた花壇が新しい地域のコミュニケーション構築の場として、末永く機能、発展していく事を期待しております。(竹野義明)



サルビアがもう少しよく咲いていたら、そして全体的にももう少し花の苗が多かったら、というのが審査側のコメントでした。続く4月15日には第63回「春の花壇コンクール」も行われ、参加321団体の中から鶴川第三小学校が努力賞を受賞しています。

(中村一行)

消防団

平成16・17年度役員交代のお知らせ
(括弧内は前職)

第3分団分団長 吉川和男(副分団長)
第3分団第7部部长 吉川清治(副部长)

同副部长 佐藤 登(団員)
同会計 園田良和(会計)

前部長の岩崎一氏はこれを機に団を勇退
されます。10年間の任務お疲れ様でした。

団員募集について

よく聞かれる質問、「プロの消防署職員が
いるのに何故更に消防団員が必要なの」？
平常時、火災や風水害が起きていない状
態では確かに不要に見えます。ですが、ま
さかの大災害の時には消防署職員だけでは
到底手が回りません(広袴便り第2号2頁
をもう1度ご参照下さい)。阪神淡路大震
災の時もそうして被害がふくらみました。
そうした非常時に備えるためにボランティア
アとして日頃から訓練に励み災害に備えて
いるのが消防団なのです。ボランティアと
しては非常に崇高な使命感をもった集団で
す。筆者も5年間団員生活を体験しました
が次のような諸点が印象に残り、団活動を
して大変良かったと思っています。

1. 団活動を通して地域の志を同じくす
る他の団員と知己になり地域のネット
ワークが広がります。
2. 操法大会出場の為の苦しい訓練を経
て連帯感が醸成され、目標を達成した
時の喜びを団の仲間と分かち合うこと
ができます。

3. 普通の市民生活では経験できない規
律訓練を通し、民主主義社会における
「自由と規律」に思いをめぐらすこと
のできる良い機会となります。

4. 団活動を通して地域に貢献できる喜
びと逆に地域から感謝される喜びを感
じることが出来ます

5. 防災、消火、救急等の基本的考え方
と技術を習得することが出来ます。

消防団員とは準公務員待遇であり、若干の
手当が出来ますが、基本的にはこうした「平
生の心掛け」を地域の為に持っているボラ
ンティア集団です。以上に共鳴される方々、
新しく広袴の住民になられた多くの方々、
年令は問いませんが、是非新部長の吉川清治
までご応募下さい(736-8248)。
一生懸命取組めばきっとやってよかったと
思うこと請けあいです。(中村一行)

広袴消防後援会

平成16・17年度役員交代のお知らせ

去る5月16日、総会が行われ次の新役員
が決定しました。(括弧内は前職)。

- | | |
|------|-------------|
| 会長 | 吉川 忠作 (副会長) |
| 副会長 | 吉川 久雄 (会計) |
| 会計 | 坂田 錦一 |
| 書記 | 石井 徹 (書記) |
| 会計監査 | 大塚二士夫 (会長) |
- (中村一行)

広楽会・みどりクラブ

役員交代のお知らせ

去る4月17日の定期総会にて新役員と平
成16年度事業(行事)計画を次のように決
定しました。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 会長 | 森吾一 |
| 副会長 | 西川文二 (総務事務局長) |
| 副会長 | 吉川志津 (婦人部友愛担当) |
| 副会長 | 吉川市郎 (会計担当) |
| 幹事10名及び各部リーダー | 宮崎節子 小礎喜四郎 (会計監査) |
| 大嶋孝之 (広袴公園の花と緑を育てる会) | 吉川芳枝 (友愛活動) |
| 中島勝 (健康を守り進める活動) | 竹野義明 (小学校、コンサート他、社会活動) |

阿部吉造 (生き甲斐を高める活動)
吉川百合子、大塚幸子、座間清子(幹事)
平成16年4月25日現在会員数88名
年会費2000円。60、105才いつでも入会
できます。(西川文二)



左から西川文二、吉川志津、森吾一、吉川市郎



広袴の交通安全を願って

町内会で3月7日に催された自転車車の安全講習会に続き、3月9日に行われた3丁目交差点に設置された新しい信号機の点灯式にも参加させていただきました。

不幸にも桐光学園の生徒さんが亡くなられた交通事故をきっかけにたくさんの方々の関係者の方々による地道な努力の結果、当日の点灯式を迎えられたとのことでした。

式典に出席された学校、警察、市、国政や都政に参画されている方々等、広袴町内会に対し熱心に応援して頂いた大勢の皆様方を間近にして感謝の気持ちが湧いてきました。又、何もお手伝いをしていなかったにも拘わらず本プロジェクトの一員になったような高揚した気分を味わうこともできました。

日常生活の中で目にする信号機のある風景は当たり前のもので長い間慣れ親しんできましたが、信号機個々は今回と同様、交通安全を願うたくさんの方々の熱意とそれに応えた行政当局皆様方の力の結晶だったのだと改めて信号機に対する認識を新たにすると共に、赤信号は注意して渡れと勝手に横断していた自分の悪しき習慣を反省し、これからはルール順守の精神で行動していきたいと思えます。

ところで、広袴町内の15組地域で困っております交通安全と騒音問題につきまして多くの方のご理解が頂ければと思います。

我々が居住している尾根道下の生活道路は桐光学園、栗平方面に抜けるルートに直結しており、朝早くから夜遅くまでたくさんの方の車が行っています。その為、ここを通学路としている桐光の学生さんを含め

住民の安全が危険な状態で、いつ人身事故が起きても不思議ではありません。利用する運転手の方々がゆっくり走ってくれば共存は十分可能ですが、残念ながら殆どの車がかなりのスピードで走行、加えて男女を問わず携帯電話片手の運転が目につきます。スピードに比例する騒音だけでも困っているのに大口径マフラーを装着した車の傍若無人とも思える爆音は音の暴力以外の何者でもありません。

閑静という言葉でイメージされる安心で暮らしやすい町を手に入れるべく、ここ鶴川台を選んだ我々は広袴町域以外の車にこれほど悩まされるとは想像もしていませんでした。

広袴町内会の皆様、一部エリアの問題ではありませんが、解決に向けて皆様方のご理解、ご支援とご協力の程をお願いする次第です。
(上杉孝三郎)



広袴3丁目に設置された信号機

「防災は身体で覚える」 —自主防映画と座談会—

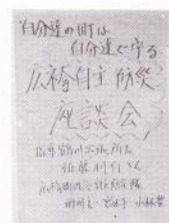
1月18日午後1時半から広袴町内会館において地元消防署鶴川出張所の方達をお招きし、町内会長や組長、班長等が出席し、自主防災座談会が行われました。鶴川出張所所長の佐藤利行氏から「40万人の町田市民の方達を我々の手で、より一層努めて守っていきたいと思います。」と挨拶があり、その後火災に関する映画が上映されました。

昨年町田では160件の火事が起き、1323平方メートルが燃えました。犠牲者が8名と過去タイ記録で火災原因のトップは26年連続で放火です。

放火に関する注意事項として、①ゴミ出しは指定した日の朝に出す。②不審者を見たら声をかける。③ゴミ置き場に照明をつける。泥棒に入って放火するケースがあるので、④車庫や物置にも鍵をかける等が挙げられました。また、①自宅のコンセントに埃がたまっていないか確認、②過剰な害虫配線を防ぎ、③冷蔵庫やサーモスタットのついている場所に殺虫剤をまかない、④住宅用火災警報機の設置等も挙げられました。

1月17日で丸9年を迎える神戸大震災では6400人強の方々が亡くなり、300軒の火災が発生しましたが、これだけの火災があった理由としては、過去に災害が少なく地域に協力体制があまりなかったことが原因とされています。こういった教訓を生かし、自分の所は大丈夫ということはないので町内会の皆がお互い助け合って被害を最小限に食い止めていきましょうというものでした。

その後質疑応答があり、3時から新年会が催されました。新年会ではそれぞれが見や情報を交換し合い、有意義なひと時を過ごしました。
(滝口博子)



講演中の佐藤利行所長

第2回

交通安全と防犯の座談会

3月7日、金子元子さん(町田警察署安全教育係)にお越し頂き、30名程の参加者と共に「真の交通安全」とはについて学習をしました。「交通マナー」の大事さ、「無謀」よりも「安易さ」により起こされる「交通事故」、そして「安全運転」の確認等を「自転車迷惑物語」のビデオを見ながら再認識しました。また新しく法規が変わっていることも知りました。また、防犯に一番必要なことは、住人が名前や顔を覚えて、お互いが広袴の人なのだと思えるから認識しあう事だということも再認識させられました。

次に皆さんの要望事項をご紹介します。

*4丁目のつる川園芸の交差点に信号機がほしい。

*広袴に交番を設置してほしい。
新しい広袴の町づくりのために、住民がどのような小さなことでも、質問や意見を出し合い、町田警察署や消防署などと連絡を取り合って、より安全で住み心地のよい町づくりを心掛けて行きたいものです。

(西川文二)

この町にこんな人 (第三回)

野菜作りの名人

吉川英男さん (73)

広袴町 549



田んぼにて

春の日差しをほんのり感じさせる3月のある日の午後、吉川英男さんにお話を伺いに、真光寺川に面した田んぼに伺いました。私たちが真光寺川の所に近づくと、パワーシャベルを操作し、畑仕事をしていたら吉川さんと息子さんの姿が目飛び込んできました。「息子も2年程前から手伝って来ています。」と、お話ししながら、お仕事の手を休めて、そばのベンチに腰掛け、インタビュに快く応じてくださいました。吉川さんは、もとは農業と牧場の両方に従事していらつしやいましたが、6丁目の

造成が進むに連れ、農業や牧場を中止し、一時サラリーマン生活に入りました。市民病院に22年間勤務した後、定年を迎えると同時に農業を再開し、既に10年程になられるとのこと。

主に作られている野菜は、出荷するものとしてはほうれん草、白菜、ねぎ、大根、なす等で、出荷先はアグリハウスと鶴川第二小学校及び第三小学校です。出荷する以外のものではトマト、きゅうり、ピーマンなど何でも作られるということです。アグリハウスには1週間に3農家が交互に野菜を出荷しているそうです。小学校には給食用として出荷されますが、どちらにも採れたの新鮮なものが運ばれていきます。

一口に野菜作りと言っても半分以上は天候に左右されるそうです。温暖化の進む昨今、寒いほうが環境として望まれる冬野菜等もあり、様々なご苦労があるようです。そのようなご苦労の中でも、土作りはもっとも基本的に重要な作業なのです。種を蒔く2-3週間前に土に肥料を施し、黒いビニールを敷いて放置し、その後、種を蒔きます。ほうれん草は10月にアトラス種、11月には冬に強いサンピア種と2回の種蒔きをします。大根は早ければ8月、一般には9月に種蒔きをします。冬野菜は1回の肥料で十分ですが、夏野菜には追肥もします。ほうれん草は酸性土を嫌うので、石灰を撒いてアルカリ性にして、土の状態を整えるそうです。野菜作りだけを同じ畑で行うと、害虫などが残りますし、土を休ませなければ結果としてよい野菜は出来ません。従って連作は不可能だということです。昔は麦や陸稲を作り連作障害を防いだそうです。

家庭菜園だと畑の面積が少ないので、連作しての野菜作りは難しいですが、小松菜などは家庭菜園で作るのにはお勧め野菜だということ。

最近では野菜も西洋野菜が増えています。ほうれん草の種等も海外から輸入されるそうです。ほうれん草の葉をよくよく眺めてみてください。葉がぎざぎざした形のものや和製ほうれん草、丸みのある形のものや西洋ほうれん草だそうです。ほうれん草も昔は根のところが今よりずっと赤く、味も濃くおいしかったとのこと。

こうしてお話を伺っているうちに、「肥料はどの位撒くのですか。肥料の撒き方はどのようにするのですか。」という私達の質問に、「勘でやっていますよ。」というお答えが返ってきました。まさに体で覚えた農作業を日々実行していらつしやるのだと、深く感銘を受けました。

ご自分の農作業でお忙しい中、鶴川第二小学校の5年生の生徒達に、吉川さんの真光寺川沿いの田んぼで田植えと稲刈りの指導をなさったとのことでした。73歳とは思えない若々しくそして穏やかでやさしいお人柄でいらつしやる吉川英男さんのご指導の下、子供達は一生のうちにめったに機会のない貴重なそして楽しい体験をしたことでしょう。地域の人々にこうして貢献して下さるお姿に感謝したいと思いました。ハウスの野菜では決して楽しむ事のできない味わいの濃い露地野菜を、これからも作り続けて頂きたいと願いつつ、春の日差しの傾く前に、私たちは暖かい気持ちで家路に着きました。

(滝口博子・佐々木幸子)

エッセイ
素晴らしい広袴に引越して

初めまして、私達は三輪町から昨年の12月に引越して参りました。主人と子供が3人の賑やかな家族です。宜しくお願致します。広袴の山の上にある「風の谷幼稚園」に長男を通わせておりました。化石山と呼ばれていたこの山は、緑が多く、水が湧き出していて神秘的な山でした。東京生まれの私はこんな緑の中で、子育てができるのは最適だなんて考えて幼稚園に子供を通わせることにしました。幼稚園のお母さんたちはキジの鳴く谷のちかくの畑で、とうもろこしを栽培し収穫しようと話していました。しかし次の日に狸にもぎとられてしまいました。キジも狸も私にとって絵本の中でしか馴染みのなかった動物ですが、ごく自然に出会うことが出来ました。他にも蛇や、きつつき、鷲、カバキコマチグモそしていろいろな虫や鳥に会いました。「共存できたらいいな。」と、やさしい気持ちになりました。

ある日突然開発が始まり、木が倒され土が掘り起こされていきました。その様子は目を覆いたくなるようでした。広袴の会報誌の第2号にも緑を維持し続けることができない理由を説明して頂いておりましたが、幼稚園の園長先生からもお話を聞かせて頂きました。お話を聞きするまでは、「山を崩してまで住宅を造り、住む人っていったい誰よ!」と、私は思っていました。(後に主人が気に入る家を建てることになつてしまします)幼稚園の園長先生は緑の中で子育てを強く望んでいらつしやいますので、幼稚園の周りだけでも緑を

守っていききたいと、「緑の会」を作り基金を募集していらつしやいます。皆様の暖かいお心をお願いいたします。

昔から穏やかなこの町にどんどんと住宅建設が進み、急激に人口が増えて人の流れなども変わってきていると思います。古くからこの地に住み、化石山を愛してこられた皆様、緑が少なくなり残念な思いは誰にぶつけることもなく、心に残っていらつしやるのではないのでしょうか。私達が悪いわけではありませんが、昔の化石山を知っている者として申し訳なく思います。

先日町内会の集まりに出席させて頂きました。信号機の設置をめぐって、西川さんの熱意と行動は素晴らしいなあと感心致しましたが、一方それに反対してこられた会員の意見があるということもわかりました。町を思つての素晴らしい方々に出会う事ができました。町が急速に変化していく中で、意見が違ふことも多々あると感じました。ご苦労をおかけしているのだなと思いません。有難うございます。最近では暗い事件が続いています。広袴の近くでは、子供の連れ去り未遂事件、緑山では、ボストンバッグに赤ちゃんが入れられ捨てられる事件等がありました。どの様な事情があつたのでしょうか。誰かが話を聞いて差し上げられたいら、きつと冷静な判断やアイデアで切り抜けられたのかも知れません。難しい問題です。

認め合い、許しあい、和気あいあいとした広袴町内会の和合衆の一人でありたいと思います。それが町を守る第一歩であり、目に見えないけれども大切なものであると信じています。私のつぶやきを読んで頂き有難うございました。(国広寿美)

広袴お店紹介 小さな野菜シヨップ

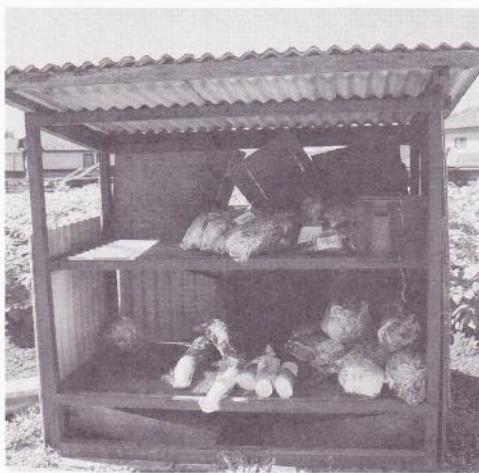
広袴の町を散歩する時、野菜を並べて売っている無人のシヨップを見かけたことはないでしょうか。真光寺川を鶴川の駅に向かつて歩いて、田んぼが開けた所から、山沿いの道を歩いて見てください。茅葺屋根の家の前辺りに、そのシヨップがあります。



これを営んでいらつしやるのが、茅葺屋根のご住居にお住まいの森さんです。森さんはお住まいの裏側に畑を所有しておられ、そこで丹精こめて作られた野菜を並べて販売していらつしやいます。15年程続けた新鮮な野菜が並んでいます。どの野菜もほぼ100円で売られますが、野菜によつては値段にバリエーションがあります。その日の朝早くに畑から採ってきたばかりの瑞々しい野菜たちです。冬は霜などで凍ることもあるので、前日に採っておき、翌日の朝に並べるそうです。まさに産地直結ともいえる四季折々の野菜が手に入ります。

夏野菜―トマト、きゅうり、なす。
秋野菜―キャベツ、ブロッコリー、大根、ニンジン、ごぼう、長ネギ。
冬から春―ほうれん草、小松菜、大根、玉葱等さまざまですが、お彼岸の頃に菜の花、

4月から5月のお節句にかけて竹の子も出ます。私がインタビュに伺った時、森さんは竹の子の一つ一つの重さを量り値段をつけてパッキングしていらつしやいました。竹の子を湯がく時に、あく抜きに必要な糠も一緒にバックするという心遣いです。私も竹の子を買って早速湯がいてみました。皮をむいていると、春の香りでいっぱいに包まれとても幸せな気分になりました。湯がき上がると待ちきれずに、一口ぱくり。甘い匂いの味が、口の中にひろがりました。野菜を買う時は、支払いをお忘れなく！シヨップの端にお金をいれる筒状の入れ物がありますから、自分の買った分を計算してお金を入れておいてください。まだご存知でない方は、一度立寄つて、お試しあれ。



広袴には森さんのような野菜のシヨップが東平のバス停の前辺りにも一つありました。こちらは吉川巖さんが営んでおられました。4月5日、惜しまれつつもご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(佐々木幸子)

編集後記

鳥(カラス)は鳥になれない。なぜカラスの字は1本足りないの?と聞かれて困った。知っている方は教えてください。今、求められていることは、「仕事と地域の中で公の精神で行動する勇氣あるリーダー」です。「広袴便り」はそうした中で新しい町づくりのために貢献する使命感を持つておりまして、皆様にはご愛読されていることと確信しております。「広袴便り」が刊行されて以来、開かれた広袴になりました。ここに謹んで第3号をお届け致します。

広袴町内会も今回新しく140世帯余の方が会員と成り、全体で500世帯に近づいてきました。町内会の組織も見直しかなされ、町内会活動も参加型から参画型「一人一役」を目指そうとしています。積極的に参加しようという新しい人材も増えてきています。「二人立て、二人は立たない。又、三人は続くであろう。」といった私の尊敬する哲人がいました。編集委員諸氏との出会いは私にとって、一歩成長の契機となり、心と心を結び合い、他人のために尽くす活動と勇氣の源ともなりました。お互いの出会いはなんと素晴らしいことでありましょう。第4号に期待を込めて!! (西川文二) 次号は平成17年1月発行の予定です。

発行日 平成16年7月1日
発行所 東京都町田市広袴町町内会
発行人 吉川俊雄
編集人 秋永俊男 飯塚明子 上杉孝三郎
大川節子 熊田道夫 佐々木幸子
滝口博子 竹野義明 谷岡克昭
中村一行 西川文二 森本亮平
(写真・鈴木正子)
印刷 (株)サン・メールサービス